

ベンゲット州知事一行来日 10周年記念式典開催

高知県青年の船が契機となり、姉妹交流協定が結ばれて33年。このときの「農民交流案」が1997年にベンゲット州政府とJA土佐くろしおとの間で実現しました。

2004年からくろしお農業振興協同組合が引き継ぎ、今までに181人が来日し、現在90名が高知県内で研修に励んでいます。

この事業は農家の高齢化や後継者難に大きく貢献しており、担い手支援的な意味合いも大きいと思います。

本年4月、同州のホンワン知事、農業交流事業発足時のモリタス知事夫妻、第1期生15名を引率して来日し、約



農業研修生受入10周年記念式典にて

1カ月須崎に滞在して生活習慣その他を指導してくれたドロシー・ハマダさん（父のシナイ・ハマダさんと共に姉妹交流の提案者）の4人を招待して、記念式典を実施しました。

式典には高知県知事代理や須崎市長等関係者約200人が出席し、JA土佐くろしおの大講堂で行われ、英語と日本語の対訳で行われました。

季節はちょうど桜の開花時期で、一行が研修生たちの活躍ぶりをモニターするために行き着くところで、満開の桜の歓迎に感激している様子でした。



フィリピン・ベンゲット州知事一行様来県歓迎夕食会

第7期生が吉岡文化環境部長を表敬訪問

くろしお農業振興協同組合が受け入れているフィリピン・ベンゲット州の農業研修生・実習生第7期生14人が3年間の研修を終えて帰国する予定にあわせ、平成20年8月13日、高知県庁・吉岡文化環境部長を表敬訪問しました。

須崎市のJA土佐くろしおがフィリピン・ベンゲット州の農業青年の受入を始めたのは平成9年で、その年は15人を受け入れ、平成12年、13年をのぞき、毎年研修生を受け入れてきました。平成16年からは同事業をくろしお農業振興協同組合が引き継ぎ平成19年度までに述べ139人の



吉岡文化環境部長（前列左から3人目）を囲んでにこやかに

研修生・実習生が高知県で農業を学んできました。

表敬訪問では14人の研修生たちは、まず、自分の担当した作物（ミョウガ、ししとう、にら、ピーマン、ぶたんなど）のことや帰国後の予定など、1人1人日本語で説明しました。最初は緊張した様子でしたが、続いたの記念撮影では持ち前の明るい笑顔も見られ、帰国後の活躍が期待されます。14人は、9月と2月の2チームに分かれ、順次帰国します。



研修生が一人一人自己紹介

ベンゲット州訪問記

～実り多かったフィリピン・ベンゲット州への旅～

松下 健一
(高知県農業大学校職員)

平成19年12月、高校の修学旅行で関東から帰ってきた子供から「お父さん黒いねえ。東京には、そんなに黒い人はおらんかったぜ。」と言われ、フィリピンに行ったことを思い出しました。フィリピンへ行く前、「お父さんフィリピンの人に間違えられて道を聞かれるがやない」と家族から笑われて旅立ったことです。語学力の乏しい私をフィリピンに連れて行ってくれた高知県・ベンゲット州姉妹交流推進会議会長でもある吉川さんに感謝しています。

僕は、四万十町にある県立農業大学校研修課で、平成15年度から新規就農を目指す方々のお手伝いをしています。研修生は、県内外から高知県での就農を目指して日々の研修に励んでおり、僕自身もすごくいい刺激をもらっています。



標高1300mにあるベンゲット州庁舎から撮影

なかでも、フィリピンベンゲットから毎年20名前後の研修生が、2泊3日の研修に来校していますが、彼ら彼女らは、とても楽しそうに作業を行い、どんな作業もスピーディに段取りよくこなしていくのに感心して、いつかこの青年達の育った環境を見てみたいと思って過ごしていました。吉川さんの顔を見るたびに、次回の訪問予定を覚えてもらい、タイミングのあったのが平成19年11月でした。



研修生とともに筆者（左）

この旅の目的は、平成15年度に高知県へ研修に来ていた農業指導者のロジャー・カタヤオ君に会うことでした。彼とは、農大研修課での研修期間中、カタコトの日本語とタカコトの英語でコミュニケーションを図り、東京の太田・築地市場への見学にも同行し、再会を約束していました。

真夜中に幡多を出発し関空まで車を走らせ空路マニラに飛び、マニラ空港では歓迎のレイを首にかけて頂き、その後陸

路バギオを目指しました。マニラ市街の人の多さと貧富の差を目の当たりにしてアジアの人口爆発は、ここでも実感できました。市街地を出ると広大な農地が広がり驚いたことに、田植えをしている横で、稲刈りをしていました。すぐ近くでは、水牛で耕耘作業をしている光景が一度に見られたことです。高知県では年にお米が二度とれる二期作が残っているが、フィリピンでは、2.5～3作の作付けが可能です。収量的には、低いようだったが、ごくまれにトラクター作業を行っている水田もあり、人口爆発に伴う食糧危機に対して、潜在的な生産力を感じました。



ベンゲット州知事を囲んで

バギオでの滞在期間中、お祭りがあり13州から集まったパレードにも参加し、イベント会場では州政府の要人の方々から歓迎していただきました。（このときの参加メンバーは、吉川さんをはじめ元青年海外協力隊としてフィリピン各地で活躍されていた方ばかりで僕はおまけでしたが、立派なメダルをかけていただきました。）ここで、前述のロジャーにも会うことが出来、夜には一緒に旨いビールを飲むことができました。バギオでは、イチゴの栽培試験ほ場などを見学しました。常夏の国にありながらも標高差を利用して何でも栽培できる気象条件は、魅力を感じました。意外だったのは、台風被害の少なさです。日本にいると「フィリピン沖で台風が発生しました」というニュースを耳にしますが、できたての赤ちゃん台風で、風は弱いということに納得しました。

インターネットや書籍等で、欲しい情報が手に入る世の中ですが、現地に行って風を感じて、温度や湿度・臭いや人情を感じる事が旅行の最大の楽しみだと思います。魅力いっぱいフィリピン訪問でした。また、機会があれば訪れてみたいと思います。



ベンゲット州政府の建物のそばで…筆者